資料３

報道発表資料
平成29年10月３日
気　象　庁

第139回火山噴火予知連絡会による全国の火山活動の評価

本日、第139回火山噴火予知連絡会において、前回（第138回、平成29年６月20日）以降の全国の火山活動について以下のとおり評価を行いました。また、参考として気象庁が発表している噴火警報・予報（噴火警戒レベル）についても併せてお知らせします。

全国の主な火山活動評価

桜島

桜島の噴火活動は継続しており、８月中旬以降は活発な状態で経過しました。昭和火口での爆発的噴火は比較的少なく、大きな噴石は最大４合目（昭和火口より800～1300m）まで到達しました。姶良カルデラ地下深部へのマグマ供給が継続しており、今後も噴火活動が継続する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中
昭和火口及び南岳山頂火口から概ね２kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

口永良部島

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2016年５月以降、１日あたり概ね100～200トンで経過していましたが、１日あたり概ね100～500トンと、４月以降はやや多い状態が続いています。噴煙は、最高で火口縁上800mまで上がるなど、2014年８月３日の噴火前よりは多い状態が続いています。また、微小な火山性地震が６月頃から増加しています。引き続き新岳火口から噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中
新岳火口から概ね２kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。

西之島

４月中旬に噴火の再開が確認されて以降、火砕丘の山頂火口からの大きな噴石の飛散や、島の西岸及び南西岸で溶岩流の海への流入が確認されていました。その後、気象衛星ひまわりの観測によると、西之島付近の地表面温度は2017年７月頃から徐々に低下し、８月頃からは周囲とほとんど変わらない状態となっています。８月11日及び24日の機上からの観測では、山頂火口から火山灰や噴石の噴出は認められず、８月11日の観測で認められた溶岩流の海への流入は、８月24日は止まっていたとみられます。西之島は約１年半の休止期間の後、４月に噴火した経緯を踏まえると、今後も噴火が再開する可能性が考えられます。

【参考】火口周辺警報（入山危険）発表中
火口から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

浅間山

火山性地震は概ねやや多い状態で経過しています。2016年12月頃から浅間山の西側での

膨張を示すと考えられるわずかな地殻変動を観測しています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2016年11月頃から増加しているものの、４月以降はやや減少し、1,000トン前後で経過しています。また、2016年12月以降、高感度の監視カメラで確認できる程度の弱い火映を時々観測しています。今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
山頂火口から概ね２kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）

４月25日から継続していた硫黄山方向が隆起する傾斜変動は、８月中旬頃から概ね停滞しましたが、火山性地震は８月中旬に一時的に増加しました。その後９月５日13時29分には、振幅の大きな地震が発生し、14時頃まで小さな地震が継続しました。またこれらの地震と共に硫黄山周辺の傾斜計では傾斜変動が観測されました。この地震の後、噴気活動の活発化がみられましたが、９月中旬以降は概ね９月５日以前の状態に戻りつつあります。また、2015年12月から徐々に拡大していた熱異常域は、９月下旬には2017年初めの程度に縮小し、高温域が局所的に存在しています。今後の活動の推移に注意が必要です。また、硫黄山周辺では硫化水素にも注意が必要です。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
えびの高原の硫黄山から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

諏訪之瀬島

御岳火口では、噴火が時々発生し、集落で降灰が確認されるなど、活発な噴火活動が続いています。今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
火口から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

御嶽山

2014年９月27日に噴火が発生した剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙活動や山頂直下付近の地震活動はゆっくりと低下し続け、火山活動には静穏化の傾向がみられることから、噴火が発生する可能性は低くなっています。しかし、2014年に噴火が発生した火口列の一部の噴気孔では、引き続き噴気が勢いよく噴出していますので、火山灰等のごく小規模な噴出が発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
噴気活動の活発な噴気孔から概ね500mの範囲では、突発的な火山灰等のごく小規模な噴出に注意が必要です。

各地方の主な活火山の火山活動評価

１．　北海道地方

①　アトサヌプリ

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

②　雌阿寒岳

・2016年10月下旬以降、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動が観測されており、2017年５月以降は小さくなりましたがわずかに継続しています。
・ポンマチネシリでは、火口直下浅部の火山性地震は少なく、噴煙活動も低調に経過しています。また、中マチネシリ火口付近及び東山腹の地震は、2016年12月頃からやや多い状態でしたが、2017年６月以降は増加する前と同様に少ない状態で経過しており、雌阿寒岳の火山活動は概ね静穏に経過しています。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

③　大雪山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

④　十勝岳

・火山活動は概ね静穏に経過していますが、６月の現地調査では62-2火口底に熱泥水が確認され、９月には浅部の熱水活動の活発化を示すと考えられる常時微動の振幅レベルが一時的に増大しました。また、７月上旬にはグラウンド火口のやや深いところを震源とする規模の小さな火山性地震が一時的にやや増加しました。
・ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生、発光現象及び地熱域の拡大などを確認しており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にありますので、今後の活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
火口内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性がありますので、火口内や近傍では火山ガス等の噴出に注意してください。

⑤　樽前山

・火山活動は概ね静穏に経過しています。山頂溶岩ドーム周辺では、1999年以降、高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出の可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
山頂溶岩ドーム周辺では、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

⑥　倶多楽

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
・なお、６月23日、９月５日及び９月24日に大正地獄で小規模な熱湯噴出が発生しました。また、８月22日に大湯沼の北東岸で小規模な熱水の吹き上げが確認されました。大正地獄での熱湯噴出や大湯沼での熱水の吹き上げはこれまでも発生しており、局所的な現象であるため、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑦　有珠山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑧　北海道駒ヶ岳

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑨　恵山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

２．　東北地方

①岩木山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

②八甲田山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

③十和田

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

④秋田焼山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑤岩手山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑥秋田駒ヶ岳

・９月14日８時から15時にかけて、地震活動が一時的に活発化しました。震源は男女岳の北西約１km付近の深さ約１～３kmで、最大規模の地震は、09時44分に発生したマグニチュード1.2の地震でした。また、今回の活動はすべて高周波成分が卓越した地震でした。

・その後、地震活動は低下し静穏な状況となっています。火山性微動は観測されず、また、地殻変動や噴気活動にも変化は認められません。

・女岳では、2009年から2016年に地熱域の拡大が認められましたが、2016年７月以降は地熱活動に大きな変化はありません。９月15日に実施した現地調査でも、女岳の

噴気や地熱の状況に変化はありませんでした。
・地震活動が一時的に活発化したことや、女岳では地熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑦ 鳥海山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑧ 栗駒山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑨ 蔵王山

・火山性地震は少ない状態が続いていて、火山性微動は観測されていません。
・地殻変動及び噴気活動に変化はみられません。
・６月から８月にかけて実施した現地調査では、御釜やその周辺の状況に特段の変化はなく、丸山沢の噴気や地熱域の状況にも変化は認められませんでした。
・2013年から2015年にかけて火山活動の高まりがみられました。その後も火山性地震や火山性微動が時々発生していますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑩ 吾妻山

・火山活動に特段の変化はありませんでした。
・８月22日から25日にかけて実施した大穴火口付近のGNSS繰り返し観測では、2015年６月の観測以降みられている大穴火口を囲む基線での収縮を示す変化が引き続き認められました。
・大穴火口付近では熱活動が継続していますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑪ 安達太良山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑫ 磐梯山

・火山活動は概ね静穏に経過しています。
・８月27日に山頂付近の深さ１～２kmを震源とする火山性地震が一時的に増加しましたが、低周波地震や火山性微動は観測されず、地殻変動及び噴気活動に特段の変化はみられませんでした。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

３．　関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

①　那須岳

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

②　日光白根山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

③　草津白根山

・2014年３月以降地震活動が活発化しましたが、2015年半ば以降は静穏な状態が続いています。
・2014年３月頃から湯釜火口直下浅部の膨張を示す地殻変動がみられていましたが、2016年半ば以降、収縮に転じています。
・2014年５月以降、火山活動の活発化を示していた北側噴気地帯の硫化水素ガス成分は、活発化以前の状態に戻りつつあります。また、湯釜湖水の温度も2014年３月頃の活発化以前の状態に戻りつつあります。
・全磁力観測では、2014年５月頃からみられていた湯釜近傍地下の温度の上昇を示唆する変化は、2016年夏頃から下降を示す変化に転じています。
・火山活動には静穏化の傾向がみられています。しかし、湯釜火口の内壁と水釜火口の北から北東側斜面の熱活動、及び北側噴気地帯の噴気活動は、活発な状態が継続しています。また、高温の火山ガスに由来する湯釜湖水の成分は、2017年に入ってからの低下傾向が８月下旬以降鈍化しています。今後も活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
湯釜火口から概ね500ｍの範囲に影響を及ぼすごく小規模な火山灰等の噴出の可能性がありますので注意してください。また、ところどころで火山ガスの噴出がみられ、周辺の窪地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

④　浅間山

・傾斜計では、2016年12月頃から浅間山の西側での膨張を示すと考えられる地殻変動が鈍化しつつも継続しています。またGNSS連続観測でも、2017年１月頃から浅間山の西部の基線で小さな伸びがみられています。
・火山性地震は概ねやや多い状態で経過し、その多くはBL型地震です。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2016年11月頃から増加し、多い状態が続いているものの、４月以降はやや減少し、1日あたり1,000トン前後で経過しています。また、2016年12月以降は、夜間に高感度の監視カメラで確認できる程度の弱い火映を時々観測しています。
・今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
山頂火口から概ね２kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は危険な地域には立ち入らないよう地元自治体等の指示に従ってください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

⑤　新潟焼山

・2015年夏頃から山頂部東側斜面の噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、12月下旬からは噴煙量も多くなりました。2016年４月以前から７月の間にごく小規模な噴火

が幾度か発生しました。2016年秋から噴煙高度は低下していますが、長期的には2015年夏以前と比べてやや高い状態が続いています。

・2017年７月27日に実施した現地調査では、山頂東側斜面の噴気孔の付近で１ppm（臭気を感じる）程度の硫化水素（H_2S）を検出しましたが、二酸化硫黄（SO_2）は検出されませんでした。

・2016年５月１日以降、振幅の小さな火山性地震がやや増加し、５月４日以降は低周波地震も時々発生しました。その後、火山性地震は減少し、現在は少ない状態となっています。しかし静穏だった2014年夏以前と比べると、長期的には地震がやや多い状態が続いています。

・GNSS連続観測では、2016年１月頃から新潟焼山を南北に挟む基線で伸びがみられていましたが、2016年夏以降は停滞傾向が認められます。

・火山活動は2015年以前の静穏な状態に戻っておらず、今後も想定火口内（山頂から半径１km以内）に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
今後の火山活動の推移に注意してください。山頂から半径１km以内（想定火口内）は、2016年３月２日から、地元自治体等により立入規制が実施されています。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

⑥　弥陀ヶ原

・弥陀ヶ原近傍の地震活動は静穏な状態が続いています。

・立山地獄谷では2012年６月以降、噴気の拡大や噴気温度の上昇など熱活動の活発化がみられており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中
今後の火山活動の推移に注意してください。また、立山地獄谷付近では火山ガスに注意してください。

⑦　焼岳

・８月９日23時50分頃から10日02時頃にかけて、空振を伴う低周波地震とともに、普段は噴気がみられない山頂西側の黒谷火口で白色の噴気を確認しました。８月27日に実施した現地調査では、黒谷火口内にごく弱い噴気と火口底の土砂噴出した跡を確認しました。８月29日から９月1日にかけて実施した現地調査では、黒谷火口の周辺に噴出物や噴気、地熱域は認められませんでした。空振を伴う低周波地震は、８月11日、９月４日にも観測されましたが、黒谷火口で噴気は観測されませんでした。

・８月９日の低周波地震発生前の９日21時頃から、山頂付近の地震計だけで観測される微小な地震がやや増加しましたが、10日03時頃以降、減少しました。

・８月29日から９月１日にかけて実施した現地調査では、地熱域の分布に特段の変化はみられませんでしたが、北峰南斜面と焼岳展望台での噴気の温度が前回の観測（2016年７月）と比べてやや上昇していました。

・GNSS連続観測及び傾斜観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

・以上のように、規模は小さいながらも低周波地震とともに噴気が観測されたことから、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑧　乗鞍岳

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑨　御嶽山

・2014年噴火後は、噴火の発生はありません。
・2014年９月27日に噴火が発生した剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙活動は、長期的に低下傾向が続いています。
・７月５日から７日にかけて実施した現地調査では、2014年火口列の一部の噴気孔では噴気が勢いよく噴出していましたが、火口列周辺の高温領域に変化は認められず、噴気孔の温度は2015年以降やや低下していました。一部の噴気孔の周辺では、硫化水素を検知しましたが、二酸化硫黄を検知した場所はありませんでした。
・山頂付近直下の火山性地震の発生回数は、2015年中頃から１ヶ月あたり50～90回前後であったのが､2017年４月以降は､1ヶ月あたり30～40回程度と徐々に低下しています。
・地殻変動観測では、2014年10月以降、2014年噴火口直下浅部が変動源とみられる山体の収縮が継続しています。
・以上のように、2014年の火口列からの噴煙活動や山頂直下付近の地震活動は、その後もゆっくりと低下が続いており、現在の火山活動には静穏化の傾向がみられることから、噴火が発生する可能性は低くなっています。
・しかし、噴気活動が活発な一部の噴気孔では、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。
・なお、６月25日に御嶽山の東南東約10㎞でマグニチュード5.6の地震が発生しましたが、御嶽山の火山活動に変化はありません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
←平成29年８月21日に噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引下げ
噴気活動の活発な噴気孔から概ね500ｍの範囲では、突発的な火山灰等のごく小規模な噴出に注意が必要です。地元自治体等が行う立入規制等に留意し、登山する際はヘルメットを持参するなどの安全対策をしてください。

⑩　白山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑪　富士山

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑫　箱根山

・地震活動は低調で、顕著な地殻変動は観測されていません。
・2015年以降、大涌谷周辺の想定火口域では活発な噴気活動がみられており、土砂の噴出を伴うようなごく小規模な火山ガス等の噴出現象が発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意してください。

⑬　伊豆東部火山群

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑭　伊豆大島

・地殻変動観測によると、地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が長期にわたって継続しており、長期的には火山活動は徐々に高まっていると考えられます。
・短期的には、約１～３年周期で膨張と収縮を繰り返す地殻変動がみられ、膨張に伴い地震活動が活発化する特徴がみられます。2016年11月頃からの山体膨張に伴い、４月から６月にかけて地震活動の活発化がみられました。最近は膨張は鈍化する傾向がみられています。
・三原山山頂火口内及びその周辺の噴気活動は低調に経過しており、ただちに噴火の兆候は認められませんが、長期的には山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑮　新島

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑯　神津島

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑰　三宅島

・GNSS連続観測では、2006年頃から山体深部の膨張を示す地殻変動がみられていましたが、2017年１月頃から鈍化がみられています。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、長期的に緩やかな減少傾向にあります。2012年頃には１日あたり400トン程度に減少し、2016年6月頃にはさらに減少し、１日あたり数十トン以下と少ない状態が続いています。
・しかしながら、2016年５月には、火山性微動とそれに伴う傾斜変動、一時的な火山ガスの増加がみられており、今後も同様の火山ガス等の噴出現象が発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
山頂火口内及び火口内南側の主火孔から500m以内では火山灰噴出に引き続き警戒してください。

⑱　八丈島

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑲　青ヶ島

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑳　ベヨネース列岩

・今年３月下旬以降、明神礁付近で変色水が時々観測されています。

・火山活動はやや活発な状態が続いており、今後、小規模な海底噴火が発生する可能性があります。

【参考】噴火警報（周辺海域警戒）発表中
明神礁付近及び周辺海域では海底噴火に警戒してください。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

㉑　西之島

・４月中旬に噴火の再開が確認されて以降、火砕丘の山頂火口から大きな噴石の飛散や、島の西岸及び南西岸で溶岩流の海への流入が確認されました。海に流入した溶岩流により西之島の陸地が拡大し、島の面積は2017年５月２日の2.75km^{2}から、８月24日時点で2.96km^{2}にわずかに広がっていました。
・８月11日及び24日の機上からの観測では、火砕丘の山頂火口から火山灰や噴石の噴出は認められませんでした。また、８月11日の観測で島の西岸部で認められた溶岩流の海への流入は、８月24日は止まっていたとみられます。
・気象衛星ひまわりの観測によると、西之島付近の地表面温度は2017年７月頃から徐々に低下し、８月頃からは周囲とほとんど変わらない状態となっています。８月24日の上空からの赤外熱映像装置による観測では、火口内や沿岸で溶岩流の海への流入によると考えられる高温部は認められませんでした。
・SARによる解析では、地表面を移動する溶岩の流出は８月上旬には停止しました。
・西之島の噴火活動は、2013年～2015年に継続した後、休止期間を挟んで2017年４月に再開した経緯を踏まえると、今後も噴火が再開する可能性が考えられます。

【参考】火口周辺警報（入山危険）発表中
火口から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

㉒　硫黄島

・GNSS連続観測では、2014年２月下旬頃から隆起・停滞を繰り返しており、2016年９月頃から隆起傾向がやや加速しています。
・火山性地震は増減を繰り返しながらもやや多い状態が続いています。
・島西部の阿蘇台陥没孔や井戸ヶ浜では引き続き噴気を観測しています。
・今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（火口周辺危険）発表中
従来から小規模な噴火が発生した地点およびその周辺では警戒してください。

㉓　福徳岡ノ場

・長期間にわたり変色水が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されます。

【参考】噴火警報（周辺海域警戒）発表中
周辺海域では海底噴火に警戒してください。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

４．　九州地方・南西諸島

①　鶴見岳・伽藍岳

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

②　九重山

・火山性地震は少ない状態で経過しましたが、６月頃からＢ型地震が時折発生しています。
・赤外熱映像装置による観測では、硫黄山の熱異常域で７月中旬以降ゆるやかな温度上昇が認められています
・GNSS連続観測では、一部の基線で伸びの傾向が認められていましたが、2017年から伸びの傾向が鈍化しています。
・わずかに火山活動が高まっている可能性があり、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

③　阿蘇山

・中岳第一火口では、2016年10月８日に爆発的噴火が発生した後、噴火は発生していません。同火口内の湯だまりの色は緑色で量は火口底の10割でした。土砂噴出は観測されていません。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、600トン～2,500トンと増減を繰り返しながら、概ねやや多い状態で経過しました。
・高感度の監視カメラによる火映は、６月27日を最後に観測されていません。
・振幅の小さな火山性地震が、７月頃から増加し、多い状態で経過しています。孤立型微動は少ない状態で経過しました。
・火山性微動の振幅は、小さな状態で経過しました。
・GNSS連続観測では、草千里深部にあると考えられているマグマだまりを挟む基線で、2016年11月頃から停滞しています。
・今後も火山活動が一時的にやや高まることがあり、火口内では土砂や火山灰の噴出する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
火口周辺では火山ガスに注意してください。なお、これまでの噴火による火山灰などの堆積等により道路や登山道等が危険な状態となっている可能性があるので、引き続き地元地方公共団体等が行う立入規制に従ってください。

④　雲仙岳

・火山活動は概ね静穏に経過しています。長期的には2010年頃から普賢岳から平成新山付近の海抜下約１～２kmの火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑤　霧島山

・GNSS連続観測では、７月頃から霧島山を挟む基線で伸びの傾向がみられており、霧島山の深い場所で膨張している可能性があります。

えびの高原（硫黄山）周辺

・硫黄山火口周辺では、2015年12月から熱異常域の拡大や噴気の量の増加がみられ、2017年２月以降は、硫黄山の南西から西側でもみられるようになりましたが、いずれも過去に活動がみられた領域です。噴気活動は火口南側で確認されている顕著な噴気孔を中心に、大きな噴気音を伴う活発な活動が続いています。

・硫黄山西麓のCl/SO4モル比は，2017 年４月下旬までにかけて増加した後に減少に転じ、同年６月下旬以降は増減を繰り返しながらほぼ横ばいで推移しています。
・2017年４月下旬以降以下のような火山活動の推移が観測されました。
1) ４月25日から、硫黄山南西観測点の傾斜計で、硫黄山方向が隆起する傾斜変動がみられ、７月半ばから一時加速して８月初めにかけて継続しました。噴気活動は、概ね稜線上100ｍ以下の高さで経過していましたが、７月中旬以降から８月上旬にかけて時々稜線上300ｍ以上に上がり、一時活発化しました。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は６月、７月の調査では、数トン～20トンでした。この間、火山性地震は少ない状態で経過していました。
2) ８月中旬以降、傾斜変動は概ね停滞しましたが、そのころから海抜０km付近で振幅の小さなＡ型地震が増加し、低周波地震もときどき観測されました。噴気活動は、８月中旬以降は概ね100ｍ以下で経過しました。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は８月17日及び31日の調査で10トン未満でした。
3) ９月５日13時29分に硫黄山の海抜０km付近を震源とする振幅の大きな火山性地震が発生し、14 時頃まで小さな地震が継続しました。これらの地震と共に硫黄山周辺の傾斜計では傾斜変動が観測されました。その後、火山性地震の発生は少ないものの、低周波地震は引き続きときどき観測されています。火山性微動は観測されていません。噴気活動は９月８日から一時的に活発になり、稜線上300ｍ以上に上がり、顕著な噴気孔で温度上昇が認められましたが、９月中旬以降には９月５日の以前の状態に戻りつつあり、噴気の高さは概ね100ｍ以下で経過しています。
・干渉SARによる解析では、９月５日を含む期間に、硫黄山で若干の膨張を示す変化がみられました。
・９月24-25日の現地調査では、50℃を越す高温域の分布面積は2017年初めの状態に縮小し、130℃を越す高温域が局所的に存在しています。
・８月中旬からの噴気活動の低下、９月５日の傾斜変化を伴う硫黄山浅部（海抜０km付近）での地震発生、その後の噴気活動の活発化と同様の現象の推移は、2016年12月12日の傾斜変化を伴う地震発生の前後にも観測されています。噴気活動の低下や地熱異常の停滞・低下は、必ずしも火山活動の低下を意味するわけでなく、地下での火山ガス・熱水等の蓄積による増圧に対応する可能性があります。より大きな増圧が生じた場合は、火口周辺に火山灰や噴石を飛散させる噴火が発生する可能性もあります。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。また、硫黄山周辺では硫化水素にも注意が必要です。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
えびの高原の硫黄山から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意してください。

新燃岳

・新燃岳では、2011年９月７日を最後に噴火は発生していません。
・噴煙活動は、６月27日に白色の噴煙が火口縁上400ｍ以上に上がったほか、時折火口縁上100ｍまで上がりましたが、ほとんどが火口内で消散する程度でした。
・2015年11月頃から、新燃岳火口の西側斜面の割れ目の下方で、やや温度の高い部分が引き続き観測されています。
・火山性地震は９月下旬以降やや増加しています。７月11日に継続時間が約２分の振幅の小さな火山性微動が観測されました。
・火口内及び西側斜面の割れ目付近では、火山灰や火山ガス等の規模の小さな噴出現

象が突発的に発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
火口内及び西側斜面の割れ目付近では、突発的な噴出に伴う火山灰や火山ガス等に注意してください。なお、これまでの噴火による火山灰などの堆積等により道路や登山道等が危険な状態となっている可能性があるため、引き続き地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。

御鉢

・時折地震の増加や火山性微動の発生がみられることから、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑥　桜島

・４月26日以降、昭和火口の噴火は断続的に発生していましたが、７月下旬から山体の膨張を示す地殻変動が観測され、８月11日以降は噴火活動が活発化しました。
・昭和火口では、噴火は６月から７月までに21回（内、爆発的噴火３回）、８月から10月１日までに275回（同59回）でした。
・同火口では８月22日夜から23日朝にかけて、噴石を概ね200ｍまで連続的に上げる噴火（溶岩噴泉）が発生しました。その後、８月23日から28日にかけて、断続的な噴火が発生し、それに対応して振幅の大きな調和的な火山性微動が時々発生しました。
・８月21日から28日の夜間のほか、８月及び９月には時々、高感度の監視カメラで明瞭に見える火映を観測しました。
・期間を通して観測された噴煙の高さの最高は、６月６日の噴火で火口縁上3,200ｍでした。
・南岳山頂火口では、６月４日及び５日にごく小規模な噴火が発生しましたが、その後は観測されていません。
・１日あたりの火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、６月から７月にかけては300トン～800トンとやや少ない状況でしたが、８月後半は1,000トン～1,900トンと増加し、やや多い状態となりました。９月は300トンとやや少ない状況でした。
・浅い地震（Ｂ型地震）は６月、７月は少ない状態で経過しましたが、８月、９月はやや多い状態で経過しました。やや深い地震（Ａ型地震）は、少ない状態で経過しました。
・GNSS連続観測では、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部の膨張を示す基線の伸びの傾向は、継続しています。
・以上のように、桜島の噴火活動は活発な状態で、引き続き噴火活動が継続すると思われます。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中
昭和火口及び南岳山頂火口から概ね２㎞の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

⑦　薩摩硫黄島

・白色の噴煙が火口縁上1,600ｍまで上がり、二酸化硫黄の1日あたりの放出量が1,000

トン観測されるなど火山活動がやや高まった状態となっており、火口内では火山灰等が噴出する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
火口内では突発的な噴出に伴う火山灰等に注意してください。また、火口付近では火山ガスに注意してください。なお、地元自治体が実施している立ち入り規制等に留意してください。

⑧　口永良部島

・新岳では、2015年６月19日の噴火後、噴火は観測されていません。
・現地調査では、2015年９月以降、新岳火口の西側割れ目付近の熱異常域の温度の低下が認められていますが、噴煙は最高で火口縁上800ｍまで上がるなど、2014年８月３日の噴火前よりは多い状態が続いています。火映は2015年５月29日の噴火以降観測されていません。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、１日あたり100トン～500トンで経過しており、４月以降、以前よりわずかに増加しています。
・微小な火山性地震は６月頃から増加しています。2016年10月以降火山性微動は観測されていません。
・GNSS連続観測では、火口に近い基線で収縮が認められています。また、干渉SARによる解析では、昨年以降、新岳火口周辺で沈降する変動がみられます。
・2015年５月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低いものの、噴煙量や火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2014年８月の噴火前よりもやや多い状態で経過していることから、引き続き噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中
新岳火口から概ね２kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。新たに降灰があった場合には、降雨時には土石流の可能性があるため注意してください。

⑨　諏訪之瀬島

・御岳火口では、噴火が時々発生し、爆発的噴火が８月に12回発生するなど、活発な火山活動が継続しています。
・十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、８月２日に集落（御岳の南南西約４km）で降灰が確認されました。また、８月３日と29日に鳴動が確認されました。
・火山性地震は少ない状態で経過しました。
・火山性微動は、時々発生しています。
・諏訪之瀬島では活発な噴火活動が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
火口から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。